

大館 おおだて

報

1988年2月16日号 (No.455)

■編集と発行 大館市役所総務課

—スポーツ都市宣言—

1月

交通事故・件数14件
死者0人
傷者17人
火災・件数3件
救急・回数56回

市の木・秋田杉 市の花・キク



▲八幡幼稚園スキー教室

子供は風の子 元気な子

八幡幼稚園では、数年前からスキー教室を開催しています。今年は雪不足のため、運動場ヘジュータンを敷いて練習していましたが、1月29日ようやく少し雪が降り、さっそく屋外でのスキー教室ができるようになりました。子供たちは、何度もころびながらも元気にすべっていました。

交通災害共済 不慮の災害共済

◇交通災害共済加入金

- ・一般 400円
- ・小中学生 300円

◇不慮の災害共済加入金

- ・一律 300円

〈申し込み〉環境保護課または支所、出張所で受け付けしています。

「十年ぐらい前から職場に売りにする花を買いもとめたり、友人からもらっているうちに四十種以上になりました。手入れはたいへんですが、大きい鉢は夫が手伝ってくれるのでたすかります。」

渡辺昭子さん
(大茂内)



花歳時記

サイネリヤ

“花の好きな方を募集”——広報「花歳時記」に登場していただく花作りの好きな方を募集しています。

自薦、他薦を問いません。どうぞ広報係(☎49-3111内線259)へお知らせください。

昭和62年消防白書

1年間に

9,700万円が灰に

六十二年中の当市の火災発生件数は二十一件、昨年より二件の減少となっています。損害額は九千六百九十二万円で、昨年より百三十八万円減少したといえ、市民一人当たりにすると千三百七十三円が灰になつたことになります。幸い火災による死者はゼロでしたが、負傷者は一人出ています。

出火原因では、ガスコンロによる火災と石油ストーブによる火災がそれぞれ三件であります。また、依然として多いのがたばこの火の不始末です。

これらの原因を見てもわかるように、火気の近くに燃えやすいものを置くなどちよつとした不注意から火災が発生し、皆さんの大切な財産が一瞬のうちに灰になつています。

62年中に
21件の火災
が発生

広域市町村圏組合消防本部では、六十二年中の火災発生状況と救急車の出動状況をまとめました。これによると当市での火災発生件数、損害額はここ数年横ばい状態です。また、救急車の出動件数は、前年に比べ六十六件の減少となりました。

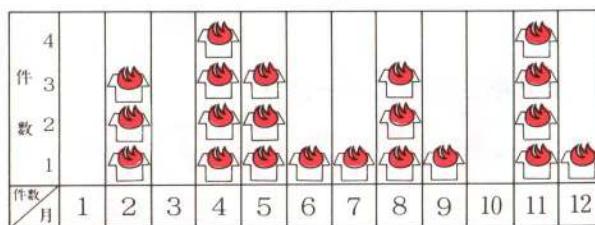


◇昭和62年火災の実態

(人口は昭和63年1月1日現在)

項目	秋田県	大館市
出火件数	593件	21件
人口1万人当たりの件数	4.7件	2.9件
火災による死者	28人	0
火災による負傷者	68人	1人
損害額	19億5,815万円	9,692万円
1人当たりの損害額	1,568円	1,373円

◇月別火災件数



日本の下水道の普及率が三二%。後進国といつても過言であります。秋田県は十%弱、大館はゼロです。遅ればせながら六十三年度から工事を本格的に始め、一部は六十七年から供用開始となる予定です。

海外旅行や東京へ出張した方に「大館と一番違う点は」と尋ねると、「トイレ」という返事が圧倒的に多いよう

市長の対話ノート



汚水と雨水の両面からの仕事で、しかも地下埋設、地味で長期間を要し、膨大な費用がかかる大仕事ですが、今日の生活水準からすれば不可欠のものであります。よく経済大国日本とは言いますが、生活大国日本と言ふ人はいません。今ようやくその門戸をつくろうとしているところです。

下水道事業を円滑に進めるためには市民のご理解とご協力が大前提です。そのため、新年度には担当課を新設する予定となっていますので、万難を排して協力をお願いします。

「子に贈る、大きな遺産、下水道」これがキヤッチフレーズです。百年の大計に立つ、子や孫のためにも、住みよい都市生活環境を、今困難を覚悟で、私たちの手でつくろう。それが私たちに果せられた今世紀最大の課題です。

～下川沿地区編～



▲墨の濃淡で描く（墨絵教室）

下川沿公民館では1月から3月まで、隔週土曜日計6回にわたって墨絵教室を開催しています。受講しているのは、主婦、会社員、会社を定年退職された方など8人。「余暇を有意義に過ごしたいので」「友人からいただいた墨絵の年賀状がすばらしかったので、自分も習ってみよう

と思って」など、受講の動機は様々です。

1月23日には第2回目の教室が開かれました。この日の画題は「竹」。墨の濃淡による陰影の出し方やひと筆の勢いで描く竹の伸びやかさ、しなやかさなど、墨絵独特の手法を学びながら、一心に筆をとっていました。

「大館曲げわっぱ」が、伝統的工芸品産業振興法の指定を受けたのが昭和五十五年。その時、指定を受けたための決め手の一つとなつたのが、小林さん所有の曲げわっぱの「おひつ」でした。指定を受けるためには、製造の技術または技法が百年以上の歴史を有することが必要ですが、その「おひつ」の裏に「川口 宝曆十三年（一七五三癸丑五月吉日 重右衛門」という墨書きの文字があつたことから、二百年以上前から曲げわっぱが使われていたことが証明されたのです。

「土蔵があまりにもちらかっていたので、不要だと思うようなものを出して、庭で焼いていたんです。このおひつも、焼こうと思つたんですが、『百年以上前の曲げわっぱを探してある』という新聞記事があつたのを思い出し、焼くのをやめまし

た。このおひつは三十年ほど前まで、農作業の際におにぎりを入れて運んだものですよ。二百年以上もこのおひつがわが家に伝わっていたのは、工芸品なんかじゃなく、なんでもない日用品だったからでしょうね。」と小林さんは話されます。

小林家の歴史は古く、小林さんがお寺の過去帳や系図で調べただけでも貞享四年（一六八四）に死亡した初代重右衛門までさかのぼること、また六代目の時、「天保のけかち」といわれる大ききんの際に、たくわえていた米を村人に分け与え多くの人命を救つたことなどにより、苗字帶刀を許されています。明治四年には、明治天皇が奥州御巡行のおり、御小憩所に小林家をご利用になられ、十一代目にあたる小林さんは、今まで、その時下賜された白羽二重で作つた紋付きや菊の紋章の入つたさかづきなどを保存しています。

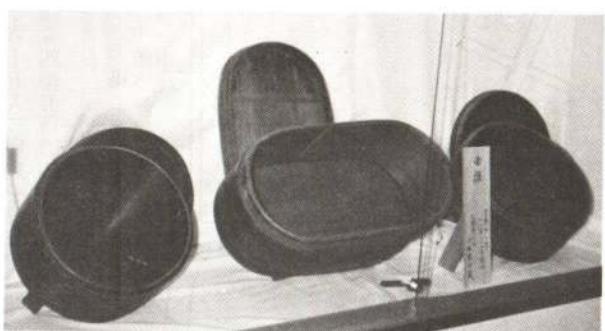
マ
タ
イ
ウ
ガ
ン
イ
ア



人物登場

225年前の 曲げわっぱを所有

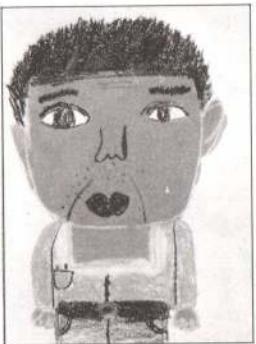
小林 重治さん
(川口字長里・71歳)



▲小林さん所有の曲げわっぱ



かたおか かすみちゃん
おとうさんはすごくや
さしい。トランプをし
てあそんでくれるよ。



ひかげ わきこちゃん
いつも、おとうさんと
いっしょにおふろへ入る
の、おとうさん大好き。



くどう えみこちゃん
雪ダルマをつくってく
れたり、雪がっせんをし
てあそんでくれるから、
おとうさんが好きなの。

ちびっこギャラリー おとうさん

下川沿保育園

川口の獅子踊りは、昭和十五年か
ら途絶えていましたが、四十七年こ
ろ再興の話が起り、四十九年から
本格的に復活しました。再興当時の
模様を、川口獅子踊り保存会会長の
斎藤常彰さんは次のように話します。
「青年会の地域活動に取り入れよ
うと、獅子踊りの再興を計画しまし
た。幸い長老の一人が笛と踊りを覚
えていたので、仲間十人が一年間毎
晩、そこ農繁期も休まずに特訓
を受けました。最初は町内会館で練
習をしていたのですが、なにせ習い
初めのへタな笛や太鼓ですので、メ
ロディというよりは騒音に

なつてしまい、近所の皆さんに迷惑をかけてしまいました。何とか練習場を変
え、最後に落ちついた場所が、町内のはずれの倉庫でした。仲間の一人が所有している倉庫なんですが、戸もなく裸電球一コしか付いていませんでした。何とか練習場を変えて、一人もやめることなく続けてこれたのは、「なんとも再興するんだ」という気概があつたからで、みんなの熱気は、雪をも溶かすほどでした。

斎藤さんたちは、一年間の練習の成果を町内会に披露。町内会も獅子踊りの保存、伝承に理解を示し、補助金も出してくれるようになりました。



ユニークな

貨車でつくった 下川沿駅

JR東日本(旧国鉄)では、下川沿駅の老朽化に伴い、昨年一月、貨車を利用して新しい駅舎をつくりました。コンパクトに新装された駅舎は、通勤、通学客はもとより、地元の皆さんからも「以前よりも明るくなつたし、ユニクでいいですね」と大変好評です。

川口上の老人クラブ「若葉会」の皆さん、社会奉仕活動の一つとして、下川沿駅の清掃をしています。会長の斎藤三郎さんは「みんなが気持ちよく駅を利用できるように」と、駅の中やホームのゴミ拾い、草むしりなどの作業を年一回行っています。会員の中には一日おきに、朝食前に駅の清掃に出かけている人もいます。また、私たちの他にも、小・中学生が夏休みなどに清掃活動をしています。せっかくの新しい駅ですから、利用される方は、タバコの吸いがらやあきカン、ゴミなどは絶対に捨てないでください」と話していました。



▲「若葉会」の皆さん

伝統の獅子踊りを再興

川口獅子踊りを再興

助金も出してくれるようになりま
たが、悩みは後継者育成でした。

「それで昨年の六月、下川沿中へ
協力をお願いしたところ、先生方の
ご理解を得て、『下川沿中学校獅子踊
りクラブ』を発足させることができ、
昨年の学校祭で獅子踊りが発表され
ました。子供たちに獅子踊りを継
りたいのはもちろんですが、単に郷土芸能の継承・保存というこ
とだけではなく、活動の中から生まれ
る郷土を愛する心、連帯感などを知
つけてもらいたいですね」と、斎藤さん
は話していました。

冬の風物詩 アメ・ツク市

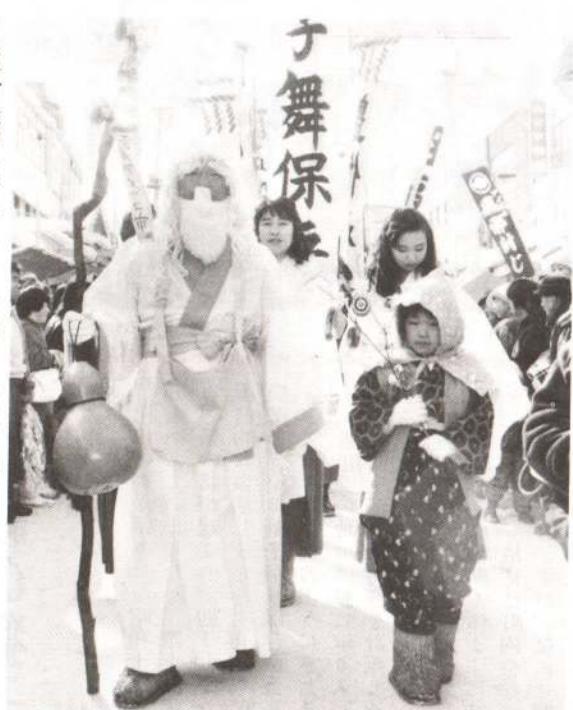
11日、12日の2日間にわたって開催されたアメツク市。気温は低かったものの例年にはない晴天に恵まれ、150を超えるアメ屋が軒を連ねた会場では、どこも“カゼ封じ”“家内安全”などを願ってアメを買い求める人たちでいっぱいでした。メインイベントの白ひげ大神巡行のほか、裸みこしの奉納や忠犬ハチ公パレード、ジャンボアメギネスに挑戦など両日とも盛りだくさんの催しで、アメツク市400年の歴史の1ページが彩られました。



▲切りアメや枝アメを求める人たちで、会場は大賑わい。



▲忠犬ハチ公パレード。一匹のハチ公たちがりりしく行進です。



▶白ひげ大神もおこうとともにアメを買ひに。



▶肌を刺す寒さの中、勇壮に神輿を奉納。今、新たな伝統が培われる。

手作りの野菜を食卓へのせてみませんか。市では南ヶ丘と有浦に「市民菜園」を設け、毎年利用希望者へお貸しています。今年も次のとおり募集しますので、どうぞご利用ください。

- ◇利用できる方
- ・市民で農耕地を持っていない方
- ・菜園を適正に管理できる方
- ・利用できる方

◆募集区画

- ・有浦菜園 91区画
- ・南ヶ丘菜園 59区画

◆申し込み受け付け

とき・3月1日(火) 9時～12時
これ以降は農林課です。
ところ・市役所3階・第2委員会室
※受付場所に備え付けの申込用紙へ記入のうえお申し込みください。なお、両菜園とも区画がうまく次第締め切ります。

◆注意

- ・一世帯一区画です(世帯員以外の方は、申し込みできません)
- ・今年の市民菜園栽培コンテストの対象作物は「山の芋」です。菜園利用者は必ず栽培しなければなりません。種芋は農林課で販売先をあつせんします
- ・必要な方は菜園利用申し込みの際にどうぞ。
- ◆問い合わせ
- 市農林課 農業経営係
(内線294)



市民菜園

利用者を募集

私の本棚

中央図書館新着図書

『代議士の妻たち』

家田 荘子 (文芸春秋)

国会の華やかな舞

台で活躍する代議士たちの陰で、夫以上にハードに選挙を闘う代議士夫人10人を追うルポ。激しい選挙選の裏側の妻の姿を通じ、政治家たちの素顔まで見えてくる。



一般書

◇すこぶる愉快な絶望 (鮎川信夫)
◇花闇 (皆川博子) ◇女の本がいっぱい (尼川洋子) ◇高丘親王航海記 (渋澤龍彦) ◇捕鯨船団女ドクター 南水洋を行く (田村京子) ◇ひとり暮らしの老いじたく (十返千鶴子) ◇西域伝 (伴野朗) ◇映画につれて (小林信彦) ほか

児童書

◇やったあ! 3年2組全員合格 (沢田徳子) ◇もりのおばけのオイラリア (アンガ) ◇おじいさんのハーモニカ (グリフィス) ◇クイズ動物の手と足 (福音館) ほか

□ 2月のテーマ関連図書コーナーは『冬の事故』です。

□ 親子読み聞かせ会は

毎週金曜日、午後2時30分から

□ 中央図書館の休館日は

2月11、21、25日です。



▲今も街道の面影を残す白沢村中の旧道

在の积迦堂は、現在は実相寺境内にあるが、前号の絵図面でみると現在の积迦内神明社の地にあつたようである。この积迦堂前を通つて街道は、今も宿駅の面影を残す积迦内本郷を北上して二ツ森に至る。

北條時頼の积迦仏奉納縁起をもつ积迦堂は、現在は実相寺境内にあるが、前号の絵図面でみると現在の积迦内神明社の地にあつたようである。この积迦堂前を通つて街道は、今も宿駅の面影を残す积

羽州街道・下 (积迦内～矢立峠)

大館の歴史散歩

峰・坂
里の道

(11)

この間の街道は、水田面より高い畠地を通つて、「此所道下欠込街道悪敷」と書留帳にあり、道は悪かつたらし。

二ツ森からは南流する下内川に並行し、萩長森西麓の河岸段丘縁を、西に長面袋、東に芝谷地・長者森を見ながら橋桁に入る。この間は「芝谷地より出水有」と書留帳に見える。

谷地・長者森を見ながら橋桁に入る。この間は「芝谷地より出水有」と書留帳に見える。橋桁を北上した街道は、筑紫森付近で下内川を綱木にかかりながら渡り、水田地帯を東に折れ、再び下内川を渡つて現国道と同じ道筋を寺の沢に向かう。寺の沢には「番屋台」という地名があり、ここに街道の「番小屋」が設けられた。街道は、険阻な山道が続く難所の中の難所を矢立峠に向う。

峠の境は「北行日記」にあるように杉の木であり、これは「矢立杉」と呼ばれていた。また、書留帳には「此所へ御茶屋掛申候所御茶屋峠」とも記されている。

この区間は、松原高原西斜面が急峻で、しかもすぐ脇を下内川が南流していることから街道の整備が悪く、書留帳にはこの箇所に急峻な山が描かれ、「松原向山下、小川之内三ヶ所仮橋破成申答」と記されている。

寛文八年(一六六八)に関所が建てられた長走は、寛文十二年(一六七二)には白沢村支郷から独立し、秋田藩最北の村である陣場台を支郷に加えた。

下内川左岸の狭い平地を北進した街道は、険阻な山道が続く難所の中の難所を矢立峠に向う。

峠の境は「北行日記」にあるよ

うに杉の木であり、これは「矢立杉」と呼ばれていた。また、書留帳には「此所へ御茶屋掛申候所御茶屋峠」とも記されている。

峠の境は「北行日記」にあるように杉の木であり、これは「矢立杉」と呼ばれていた。また、書留帳には「此所へ御茶屋掛申候所御茶屋峠」とも記されている。

消費者の窓

クレジットカードの使いすぎにご注意!!



クレジットのチエックポイント

利用は計画的に!

一般にクレジットの月々の支払い上限は収入の「二・五割」。自分の返済能力を考え、しつかりした資金計画を立てておくことが大切。

契約書はしっかりと読みましょう!

契約した書類は大切に保管。

支払い期日は守りましょう!

支払いが遅れる、遅延利息をとられるばかりでなく、信用問題にもなりかねません。十分注意を。

名義の貸し借りはやめましょう!

貸し借りはトラブルのもと。事故の際の支払いは、名義を貸した本人。

困ったときのご相談は

市役所市民生活課へどうぞ